



もとむ 尾辻 求 さん(84)

# まくひとしごと 枕崎 × 人 × 仕事 No.16

## 尾辻鯉節店 / 東本町

「枕崎 × 人 × 仕事」では、枕崎にあるさまざまな仕事と、その仕事に携わる人を紹介します。今月は、ベテランの鯉節職人取材しました。



鯉節生産量日本一を誇る枕崎。現在、本市には40数軒の鯉節店があります。今回はそのうちのひとつ、尾辻鯉節店を営む尾辻求さんを取材しました。地元枕崎で生まれ育った尾辻さんは、中学校を卒業後、市内の鯉節店で働き始めました。10年間鯉節作りの技術を学んだ後、一度大阪へ出ますが、4年後に枕崎に戻り、32歳の時に尾辻鯉節店を立ち上げました。成人祝いに親から譲り受けた2枚の土地を売って工場建設や運営資金に充てたという尾辻さんは「その土地がなかったら、今の自分はない」と振り返ります。一つ一つ丁寧に作られる尾辻さんの鯉節は高く評価され、過去には4年に1度開催される全国鯉節類品評会において、一番

価値がたたくさん詰まっていたことに気付かされたのでした。私の職業は、取材をし、その取材対象の魅力を最大限に引き出して適切な表現で伝える「ライター」です。「地域おこし協力隊」はあくまで立ち位置を示すものだと思っています。今回の経験を通して、多くの気づきと学びがありました。私はこれまでたくさんのお土産の素敵なモノ・コト・ヒトを取材してきましたが、いいところだけを切り取って、その裏に秘められた泥臭い努力や過去の失敗から目を逸らしてきたかもしれない。表面的な苦労話を聞いて満足し、美化して発信してきたかもしれない。深く反省させられました。真に迫る発信には、「身を以て知る」ことが必要不可欠。自らはなんのプロダクトも持たない取材・発信者だからこそ、この心構えを大切にしなければと痛感しました。

枕崎弁の冊子づくりの仲間募集 枕崎弁について調査したことを冊子にまとめたことを考えています。内容は、特に特徴的な浜弁(枕崎地区)と麓弁(稗山地区)の比較、枕崎弁と外国語と共通点など。制作にあたり、「こぼれ」に興味のある学生さんと一緒に何かできるいいなと思っています。絵を描ける子がいると泣いて喜びます。お心当たりのある方は、ぜひご連絡ください！

となる農林水産大臣賞を受賞しました。その後も同品評会で農林水産大臣賞に次ぐ水産庁長官賞を数回受賞し、例年9月に実施される「さつま鯉節産地入札即売会」においては、ここ数年、一番の高値で落札されるなど上質の鯉節を作り続けています。尾辻さんは「良い原料がないと良い鯉節はできない」と鯉節の原料となるカツオにこだわります。9月から11月にかけては、鹿児島市で水揚げされる近海ものの一本釣りカツオを仕入れられます。1匹ずつ釣り上げられる一本釣りのカツオは、網で揚げられるカツオより数が少なく、手間がかかるため価格は高くなりませんが、その分、冷凍保存などの品質管理がしっかりとされており、質の良い鯉節になると話します。「良い鯉節になるためには、原料が7、技術が3」と話す尾辻さん。技術面では、現在、息子の輝一さんが鯉節の削り作業を担当します。「削りが上手だった妻の技術をしっかりと受け継いでいる」と輝一さんを褒めつつも「カツオの生切りだったら、俺もまだまだ負けない」と誇らしげに笑います。今年で85歳を迎える尾辻さん。「体の動く限りは、現役で頑張りたい」と話します。

**南浜館の臨時休館について**

- 期間 7月6日(火)～10日(土)

**特別企画展「親愛なる友フィンセント 動くゴッホ展」**

印象派を代表する画家フィンセント・ファン・ゴッホにスポットをあて、コンピューターグラフィックス技術を使った作品を集めた体験型展覧会「デジタルファインアート展」として「動くゴッホ展」を開催します。前売券を販売中です。チケットお求めの方は、右の販売所もしくはチケットぴあにてご購入ください。

- 会期 7月11日(日)～9月5日(日) 会期中無休
- 会場 南浜館
- 観覧料 一般1,000円、高校・大学生800円、中学生以下 無料(前売券：一般800円、高校・大学生600円、団体割引等有り)

**チケットぴあ Pコード:685-700**

**販売所** 南浜館、市役所売店、枕崎駅前観光案内所、お魚センター内観光案内所、薩摩酒造明治蔵・花渡川ビアハウス、地域商社まくらざき

**スポーツ・文化 イベント情報**

**南浜館**

- 開 9:00～17:00 ※入館は16:30まで
- 休 毎週月曜日 ※月曜日が祝祭日の場合は翌日
- 問 スポーツ・文化振興課 TEL72-9998



## 今月の担当は りっか隊員です!



こんにちは、地域おこし協力隊の篠塚立夏です。いよいよ夏がやってきますね。今年こそ枕崎で釣りをしたい、船に乗って海に出たい!腹皮パーティがしたい!自分からは誘えない性格なので、皆さまからのお誘いを待ちにしています。

## 地域おこし協力隊 活動レポート

# 協力隊が行く!

産地ならではの体験で得た学び 枕崎では日々、鯉節・お茶・菊・芋・焼酎・肉をはじめとした、さまざまなモノが生産されています。大都市に暮らしていた2年前まで、生産物に触れることはあっても、それらがどのようにつくられてきたのか想像を膨らますことはほとんどありませんでした。それが今では、生産現場がそこらじゅうにあり、たくさん生産者が身近にいます。このような環境を生かさない手はないと思ひ、職業体験をさせていただけないかと茶農家さんをお願いしたところ快諾。2日間にわたり、茶畑にバロン(黒い布)を被せたり剥がしたりする作業、製茶機械に粘土のようにこびりついた茶くずを削り取る作業、工場に舞うお茶の粉をかき集める作業をお手伝いしました。実は1年ほど前に同茶農家さんを取材しインスタグラムで発信をしていたのですが、百聞は一見にしかず、百見は一体験にしかず!見た目よりも遥かに重労働な上、神経を使うもので、1杯のお茶が食卓に運ばれるまでの長く険しい道のりを身に沁みて感じました。100円以下で手に入るペットボトルのお茶や、飲食店でサービスマスされるお茶の美味しさを当たり前のようには享受できてしまっているありがたみ……。単純にお金ではカウントしきれない

い価値がたたくさん詰まっていたことに気付かされたのでした。私の職業は、取材をし、その取材対象の魅力を最大限に引き出して適切な表現で伝える「ライター」です。「地域おこし協力隊」はあくまで立ち位置を示すものだと思っています。今回の経験を通して、多くの気づきと学びがありました。私はこれまでたくさんのお土産の素敵なモノ・コト・ヒトを取材してきましたが、いいところだけを切り取って、その裏に秘められた泥臭い努力や過去の失敗から目を逸らしてきたかもしれない。表面的な苦労話を聞いて満足し、美化して発信してきたかもしれない。深く反省させられました。真に迫る発信には、「身を以て知る」ことが必要不可欠。自らはなんのプロダクトも持たない取材・発信者だからこそ、この心構えを大切にしなければと痛感しました。

市長 コラム vol.28

地域共生社会の実現へ

こんにちは、前田祝成です。

先月のコラムでは「SDGsのこれから」というタイトルでSDGs(持続可能な開発目標)について書きました。このSDGsは「誰一人取り残さない」という考えのもとで、世界の課題を網羅的に取り上げ、17のゴールと169のターゲットを掲げています。この「誰一人取り残さない」社会こそが、目指すべき地域共生社会ではないでしょうか。本市でも、地域共生社会の実現に向けてさまざまな取り組みが進められています。4月1日からは「地域共生社会の実現のための社会福祉法の一部を改正する法律」も施行され、我が国としてもこれからの地域共生社会の実現に向けた取り組みが加速される状況です。

さて、本市では「すべての人が住み慣れた地域の中で自分らしく生きがいを感じることができるまちづくりの実現」を目指して高齢者福祉、障害者福祉に、そして子育て世代については妊娠期から子育て期までそれぞれのステージに合わせた切れ目のない支援を行い、若い世代が安心して子どもを産み育てられる環境づくりに取り組んでいます。高齢者の健康づくり事業や特定健診事業など継続的な取り組みのほか、福祉的な意味合いのタクシー利用券発行事業や新生児への商品券給付事業など最近、取り組み始めた事業など、さまざまな取り組みが行われています。

また、近年では8050問題や介護と育児のダブルケアを始め、私たちの周りでもさまざまな課題が複雑化、複合化してきています。それらの新たな課題に対しては、縦割りではなく組織を横断した包括的な体制整備が課題であると認識しています。

SDGsのゴール3「すべての人に健康と福祉を」、ゴール11「住み続けられるまちづくりを」など、これらの課題にも紐づけられるのがSDGsのツールとしての使い勝手の良さです。これからは「誰一人取り残さない」SDGsの考えも頭に入れて、地域共生社会の実現に向けた仕事を進めていこうと思えます。

**SDGsのゴール3「すべての人に健康と福祉を」、ゴール11「住み続けられるまちづくりを」など、これらの課題にも紐づけられるのがSDGsのツールとしての使い勝手の良さです。これからは「誰一人取り残さない」SDGsの考えも頭に入れて、地域共生社会の実現に向けた仕事を進めていこうと思えます。**